

当院のさまざまな診療科における最前線の取り組みや、それぞれの科について、日々治療にあたっている医師がわかりやすくご紹介します。

先端医療

眼科

しょうしたい
硝子体手術をご存じですか？

眼科部長
小田 仁



「硝子体」は百害あって一利なし？

みなさんは「硝子体」をご存じですか？ “がらすたい”ではなく“しょうしたい”です。角膜とか水晶体という名前は聞いたことがあるかもしれませんが、硝子体というのはあまり耳慣れないかもしれません。

でも大きさだけでいえば眼全体の3分の2を占める“最大派閥”です。卵の白身のように透明でどろどろしており、眼に入った光の通り道になっています。

実はこの硝子体、少なくとも大人ではほとんど役に立っていません。そればかりか、さまざまな網膜の病気の原因になります。有名なところでは網膜剥離や糖尿病網膜症などがあります。

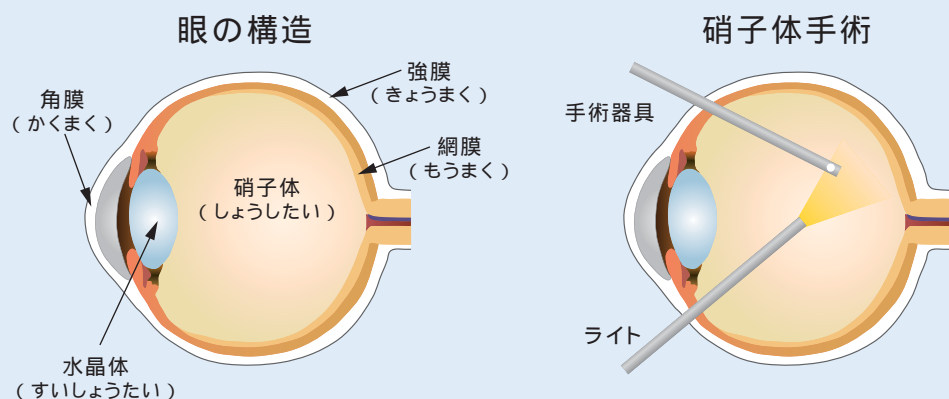
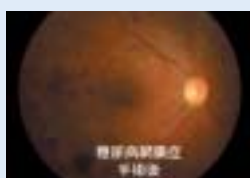
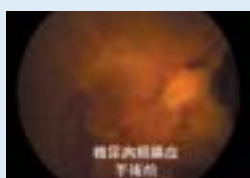
こういった病気は、そもそも硝子体がなければまったくおこらないか、おきてても非常に軽くてすむと考えられています。まさに百害あって一利なし、眼科医の中では、病気がおこる前にすべての人の硝子体をとるべきだ、と主張する人もいたりします(極端ですが)。

網膜の病気は硝子体手術で治療可能に

かつては、この硝子体がかかわる網膜の病気の治療は、非常にむずかしかつたのですが、近年、硝子体をとりのぞいて網膜の病気を治す方法として硝子体手術が考案されました。その後さまざまな改良が加えられ、現在ではかなり多くの病気が治療可能となってきました。

具体的な方法としては、強膜(白目)に小さな穴をあけて、そこから細い手術器具を入れます。硝子体カッターと呼ばれる吸引切除器具や、小さなはさみ、セッシなどを使います。また眼の中は非常に暗いので、照明のためのライトを同時に使います。こうして諸悪の根源である硝子体をとりのぞき、網膜剥離や糖尿病網膜症を治すのです。

もちろん病気にならないのが一番ですが、なってしまった場合にはきっと心強い味方になってくれることでしょう。



各科紹介

産婦人科

バランスのとれた産科・婦人科を目指して

産婦人科部長
角田 肇



産科と婦人科

昨年12月に関東病院産婦人科部長として着任いたしました角田と申します。この場を借りて、私どもが目指している当院の産婦人科の診療方針についてご紹介したいと思います。

産婦人科という診療科をご存じない方はいらっしゃると思いますが、産婦人科は正式には産科婦人科と言って、産科と婦人科の二つの診療科を合わせた名称です。当院では、バランスのとれた産科と婦人科の診療を目指しています。

安全なお産を目指して

産科と言えば、もちろん元気な赤ちゃんを出産する手助けをするのが私たちの役割です。最近では少子化が大きな社会問題になっていますが、当院でお産をされる方は増えてきており、最近3年間は年間600分娩以上のお産を取り扱っています。

私どもは長い間にわたって安全でかつ快適な妊娠・分娩をモットーとして掲げてきました。施設面では2005年に分娩室・新生児室を改築し、全分娩をLDR(陣痛室_分娩室_回復室が一体となった特別な個室)で行い、夫立ち会い分娩や母児同室をお勧めしています。

施設以上に誇るべきは、助産師はじめ充実したスタッフです。現在、産婦人科病棟(8A病棟)では22名の助産師が勤務しており、夜中や休日に陣痛が来て入院、お産になったとしても、付きっきりで分娩の介助をします。また入院中の患者さんの良き相談相手となるように努力しています(10ページ「看護部よりこんにちは」をご参照ください)。生まれた赤ちゃんはすべて小児科専門医が主治医となり、また帝王切開などの麻酔は麻酔科専門医が担当いたします。

3月からは助産師外来も開設します。妊婦さん一人に十分な時間を取って助産師が妊婦健診を行います。詳細は産婦人科外来までお問い合わせ下さい。

適切な婦人科治療を目指して

少子化とともに高齢化社会となり、婦人科疾患で悩まれる患者さんが増えています。特に、婦人科がん(子宮がんや卵巣がん)の診断・治療は、他のがん同様、婦人科がん治療の専門医のみならず、放射線治療専門医、病理専門医、そして緩和ケアの専門医と協力したチーム医療が極めて大切です。

当院は、日本婦人科腫瘍学会(婦人科がん治療専門医の団体)が、婦人科がん治療の専門医を志す産婦人科医師の修練を大学病院以外で認めている、数少ない病院です。この学会は、病院や主治医によって婦人科がん患者さんの治療法が著しく異なることがないように、がん治療ガイドラインというマニュアルで標準的な治療法を示しています。私たちは、これらのガイドラインを守りながら、ひとりひとりの患者さんにあったオーダーメイドの治療法を患者さんご本人と直接相談しながら決めていきます。

また、婦人科良性疾患(子宮筋腫や卵巣嚢腫)のために手術が必要な患者さんに対しては、まず腹腔鏡や子宮鏡などの内視鏡を用いた手術が可能かどうかを検討し、できるだけ患者さんに負担の少ない手術を目指しています。

バランスのとれた産科と婦人科の診療を目指す新体制の産婦人科にご期待下さい。

